

1. 平成29年度定時社員総会開催報告

平成29年4月28日に京王プラザホテル(東京・新宿)にて標記総会が開催された。主な報告事、決定事項は以下である。(総会議事録より抜粋。尚、すでに会報で報告された事項は省略する)

(1) 理事長報告・各種委員長報告

I. 深山理事長より理事長報告があった。

1) 学会の概況について

- ① 会員数は現在4,590名で、その内医師3,739名、歯科医師334名である。
- ② 専門医については、医科が2,360名、口腔133名、病理研修医登録者数は医科441名、口腔73名である。
- ③ 病理専門医3,000名体制を目指して努力しており、若手の参入に期待している。

2) 病理学会の現況

- ① プログラム制での病理専門研修を開始した。
- ② 学術評議員更新制度を開始する。
- ③ 会員システムの導入準備が進んでいる。
- ④ NCDによる病理解剖症例登録を開始した。
- ⑤ 「国民のためのよりよい病理診断に向けた行動指針2017」を後ほど提案する。
- ⑥ 役員(理事、監事)規程に「全国区選出理事は男女両性で構成する」という一文を盛り込む事を検討している。
- ⑦ 鬼島宏委員長を中心に、生涯教育の充実に取り組んだ。
- ⑧ 内科学会と共同で病理解剖の許諾の教育に関するアンケートを実施した。

3) 研究・教育について

- ① AMED(日本医療研究開発機構)平成28年度「臨床研究等ICT基盤構築研究事業」に、「AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発」研究として応募し、事業を受託した。佐々木毅学術評議員を中心にこの事業に取り組んでいる。
- ② AMED受託事業「ゲノム研究用試料に関する病理組織検体取扱規定の策定及び病理組織取扱いに関する実証研究」を基盤に、「ゲノム診療のための病理試料ガイドライン」の策定や、分

子病理診断医育成についても検討している。

- ③ 現在の「病事情報ネットワークサーバー」を、病理学術・生涯教育サポートシステムとしてより活用されるものにしてゆく。名称についても検討中である。

5) 病理業務をめぐる状況

- ① 「国民のためのよりよい病理診断に向けた行動指針2017」(案)を策定したので、後ほど提案する。
- ② がん対策推進基本計画改定における意見交換や、「臨床検査技師等に関する法律」での遺伝子検査の取扱い等について政府関係者と意見交換を行っている。
- ③ 検体取扱いマニュアル、各種ガイドライン、がん取り扱い規約、デジタルパソロジー活用のための手引き等の策定を行った。
- ④ 医療安全と解剖は重要な案件ととらえており、厚生労働省の関係班会議と連携するなどし、共同のアンケートを実施している。
- ⑤ 口腔病専門医の位置づけについて、今一度検討、確認を行っている。
- ⑥ 診療報酬改定については、「病理診断」を検査ではなく、きちんと医療の中に位置付けるということを目指し、保健医療機関連携制度や病理開業などの制度づくりにむけた要望がおこなってきた。今回もこの制度作りの推進のため、「診療情報提供料」の適用を要望する。その他の項目としては、遠隔連携病理診断デジタル化加算や、悪性腫瘍手術検体病理診断料加算等を上げている。この件をこの度の「行動指針」にも反映させたい。

II. 安井副理事長より担当委員会報告があった。

1) 広報委員会報告:

- ① 会員システム導入について
 - i. 意義と目的
 - ・バックアップを含むクラウド管理を行い、会員情報管理をより強固に。
 - ・会員が自身で登録情報の変更や、データ確認が可能になり利便性が向上。
 - ・学術評議員の更新や役員選挙、入会手続きもオンラインで実施可能。
 - ・全ての病理学会事務作業のプラットフォーム

に。

ii. 導入スケジュール

- ・7月にID(会員番号)・仮パスワード配布(郵送)を予定。各会員はログインし、PW変更を願います。
- ・今秋より次期役員選挙をオンラインで実施予定。

2) 社会への情報発信委員会(伊藤智雄委員長)報告:

- ① HANSHIN 健康メッセ(2017/8/24-26)への出展
- ② 病理広報動画の内容検討
- ③ ホームページの「市民の皆様へ」の更新
- ④ 学術集会会期中の中高生向けブース開設の検討

3) 倫理委員会(横崎宏委員長)報告:

- ① AMED 研究「AI等の利活用, WSI データ収集による病理支援システム開発」の倫理審査
- ② 総会演題登録時における倫理指針遵守の確認

4) 病理医・研究医の育成とリクルート委員会(豊國伸哉委員長)報告:

- ① 「レジナビ」への出展
- ② 100周年記念病理学新人賞の応募対象者の見直しの検討

5) 学術奨励賞選考委員会報告:

- ① 先ほど表彰を受けた4名の受賞者を決定。
- ② 本賞の応募対象者を今後40歳以下あるいは学位取得後10年以内で、会員歴5年以上とする。

III. 小田義直常任理事より担当委員会報告があった。

1) ゲノム病理診断検討委員会報告:

- ① ゲノム病理組織取扱い規約委員会(金井弥栄委員長)報告:
 - i. AMEDからの委託業務(ゲノム研究用資料に関する規定の策定及び実証研究)平成28年度契約分が終了した。継続研究の他、冊子体の増刷等を行った。
 - ii. 平成29年度も再契約となり、認証機能付きe-learning systemの構築や、新たな実証研究・規程の改定・規程の英文化等に取り組む。
- ② ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程(仮称)のワーキンググループ(WG)を設置し、診療用の規程策定に着手した。

2) 男女共同参画委員会(橋本優子委員長):

- ① 業務体制の充実・就業継続・復職支援の充実・相談窓口の充実
- ② 100周年記念事業からの支部会等託児サービスの充実と継続
- ③ 男性医師(特に指導医師)の協力も必要との観点から、男性医師を対象とした企画発案
- ④ 女性学術評議員の割合について、具体的な数値目標の設定し、一般会員と同じ比率を目指す(現在の17%から20%へ)。

3) 病理情報ネットワーク管理運営委員会(宇於崎宏

委員長)報告:

- ① 本ネットワークは関東・中部・中国四国支部、肺癌学会病理委員会や生涯教育委員会で活用されている。
- ② 本サーバーの更新時期が近づいているため、AMEDプロジェクトのサーバー設置等のことと合わせて、対応を検討している。
- ③ 「病理情報ネットワークセンター」の名称公募を検討している。

IV. 坂元亨宇常任理事より担当委員会報告があった。

1) 財務委員会報告:

- ① 平成28年度の決算報告は後ほど審議をお願いする。昨年は剖検輯報のNCD登録導入費用として、データベース開発費等が約1,600万円であった。今後の利便性の向上等から適切な費用と考えている。
- ② 春、秋の総会の、補助金の増額について検討している。

2) 国際交流委員会(石川雄一委員長)報告:

- ① 学術集会の国際化に学術委員会と共同で取り組んでいる。

3) “Pathology International”編集報告:

- ① 世界全体からの投稿数は増加しているものの、国内からの投稿は減少傾向にある。この件について、会員に積極的な投稿が呼びかけられた。

4) 剖検情報委員会(宇於崎宏委員長)報告:

- ① 剖検データのNCD登録への移行が無事に終了した。
- ② 剖検数の減少も下げ止まりの兆しがある。

V. 高橋雅英常任理事より担当委員会報告があった。

1) 学術委員会報告:

- ① 平成29年度学術研究賞演説(A演説)は18題より8題を、B演説は5題から2題の選考を行った。
- ② B演説を「症例研究賞」とし、顕彰化する。
- ③ 学術奨励賞の内規の改定し、受賞対象者をその年度の3月31日段階で5年以上の会員歴をもつ40歳以下、あるいは学位取得後10年以内の会員とする
- ④ 学術集会の国際化に取り組んでいる。
 - i. 第104回総会(名古屋), 第105回総会(仙台)では以下を実施した。
 - ・「プログラム」, 抄録の「講演タイトル」, 「演者」の日英併記
 - ・ポスター発表の英語による作成の推奨
 - ・口演の英語セッションの増加(1会場は必ず英語セッション)
 - ・総会のホームページの英語versionの開設
 - ii. 第106回総会(東京)では以下の事に取り組んでいる。
 - ・トラベルグラントの創設(5名分)

- ・口演の英語セッションの増加（2会場で実施）
- ⑤ 総会会長の選出時期を半年早め、冬に募集し、春の総会で決定する。

- i. 春の会長は大会の3年前に、秋の会長は大会の2年半前に決定する。
- ii. 平成32年（2020年）第66回秋期集会、平成33年（2021年）第110回春期集会より適用予定である。

2) 教育委員会（笹野公伸委員長）報告：

- ① コア画像の英語化をすすめている。また正常な画像を加える事も検討している。

3) 用語委員会（横崎宏委員長）報告：

- ① 委員8名にて活動を再開した。
- ② 他学会からの医学用語の検討依頼等に対応する。

VI. 北川昌伸常任理事より担当委員会報告があった。

1) 病理専門医制度運営委員会報告：

- ① 今後の専門医試験日程は以下の通りである。
 - i. 平成29年8月5日（土）、6日（日） 神戸大学医学部楠キャンパス
 - ii. 平成30年7月28日（土）、29日（日） 東京医科歯科大学
 - iii. 平成31年 夏 東京医科歯科大学
 - iv. 平成32年 夏 神戸大学

- ② 昨年に引き続き、iPadを用いたヴァーチャルスライド問題も出題予定である。

- ③ 現在学会主導で行っている病理研修プログラム制度は、来年度より日本専門医機構（機構）主導で実施予定である。機構の進捗が悪く、会員には迷惑をおかけしているが、粛々と準備を進める。

- ④ 機構の病理専門医研修を行うにあたり、専攻医は病理学会に入会後、研修登録を行い、研修手帳を入手する事について、身近な関係者に周知をお願いしたい。

⑤ 病理専門医資格更新について

- i. 平成28年秋の審査結果は機構専門医387名、学会専門医39名であった。
- ii. 資格更新基準の一部変更に伴う提出書類の変更予定がある。

VII. 落合淳志理事より担当委員会報告があった。

1) 編集委員会報告

- ① 「診断病理」(安田政実編集長)編集委員会報告：
 - i. PubMedでの検索等を視野にいれ、抄録の英文化を進めている。

VIII. 森井英一理事より担当委員会報告があった。

1) 医療業務委員会報告：

- ① 一般の方からお問合せのある、受託病理解剖(医療関連死の事案を除く)および病理外来実施施設を調査しHPに一覧を掲載予定である。この件については慎重に対応を進める。

2) 精度管理委員会（増田しのぶ委員長）報告：

- ① 「病理検体の取扱いマニュアル」の活用状況を調査するアンケートを企画している。

IX. 田中伸哉理事より、担当委員会報告があった。

1) 研究推進委員会報告：

① 病理学会カンファレンスについて

- i. 本年より神戸六甲山から、犬山に会場を移し、3年間開催する。
- ii. 本年は7月28日、29日の2日間、豊國伸哉世話人のもと、「酸化ストレスレドックス研究の曼陀羅的展開」をテーマに開催される。

2) 診断病理サマーフェスト委員会(羽賀博典委員長)報告：

- ① 本年のサマーフェストは「皮膚の炎症性疾患」をテーマとし、新井栄一世話人のもと、準備を進めている。会期は9月2日、3日で、6月より参加受付を開始する。

3) 医療関連死調査に関する委員会報告：

① 医療安全調査機構の動向

- i. 医療事故調査報告件数546件、内解剖実施例は約1/3である。
- ii. センター調査は27件実施され、協力団体である本学会から調査に7名の委員を派遣している。

(2) 今後の総会開催予定

- 1) 第63回（平成29年度）秋期特別総会 東京
会長：内藤善哉（日本医科大学）

会期：平成29年11月2日（木）～3日（金）
会場：日本教育会館

- 2) 第107回（平成30年度）総会 札幌

会長：笠原正典（北海道大学）
会期：平成30年6月21日（木）～23日（土）
会場：ホテルさっぽろ芸文館及びロイトン札幌

- 3) 第64回（平成30年度）秋期特別総会 呉

会長：谷山清己（国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター）

会期：平成30年11月22日（木）～23日（金）

会場：呉市文化ホール他

- 4) 第108回（平成31年度）総会 東京

会長：坂元亨宇（慶應義塾大学）

会期：平成31年5月9日（木）～11日（土）

会場：東京国際フォーラム

協議事項

※以下(3)～(8)、すべて承認決定となった。会報353号参照のこと

- (3) 平成28年度事業報告ならびに決算報告に関する件
- (4) 平成29年度新名誉会員推戴の件
- (5) 平成29年度新功労会員推戴の件
- (6) 平成29年度新学術評議員候補者の件
- (7) 功労会員資格関係規定改定の件
- (8) 「国民のためのよりよい病理診断に向けた行動指針2017」の件

(9) 女性理事枠新設の件 (提案)

深山理事長より、男女共同参画推進のため「全国区理事は、男女両性で構成するものとする」とする件が提案され、会員の意見が求められた。この方向性について特に異論がなかったため、次回総会に、定款施行細則等関係規定改定を正式に提案することが満場一致で承認された。

2. 第35回病理専門医試験について

本年度の病理専門医試験は、8月6、7日(土・日)に神戸大学にて実施され、受験者86名中71名が合格しました(合格率82.6%)。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は、次のとおりです(登録年月日:平成29年8月9日)。

平成29年度病理専門医合格者氏名
認定番号 姓名

3280	石川 亮	3316	吉澤 忠司
3281	西田 陽登	3317	山田 倫
3282	井上 久子	3318	辻脇 光洋
3283	橋本 浩次	3319	柴 瑛介
3284	中山 文恵	3320	大野京太郎
3285	山下 淳史	3321	蛭田 昌宏
3286	河田 卓也	3322	井上 朋大
3287	中村 麻予	3323	吉岡 恵美
3288	高山 佳泰	3324	奥野 高裕
3289	里見 英俊	3325	服部 拓也
3290	澁谷 亮	3326	小菅 則豪
3291	北脇 優子	3327	羽賀千都子
3292	瀧澤 克実	3328	深谷佐智子
3293	櫻井 映子	3329	片木 宏昭
3294	清水 亜衣	3330	石田 伴典
3295	沖田 千佳	3331	北薊 育美
3296	石井 保志	3332	滝 哲郎
3297	高原 大志	3333	半田 瑞樹
3298	高柳奈津子	3334	渡邊 侑奈
3299	西東 洋一	3335	金田 幸枝
3300	小島 伊織	3336	石田 毅
3301	赤木真由美	3337	千葉 知宏
3302	越 浩美	3338	渡邊 俊介
3303	加藤 麻倫	3339	久松 憲治
3304	紅林 泰	3340	西田 浩彰
3305	安達真希子	3341	黒田 亮平
3306	大西 一平	3342	谷 優佑
3307	木脇 祐子	3343	松井 崇浩
3308	倉田 美恵	3344	濱保 英樹
3309	沼倉 里枝	3345	中 智昭
3310	加藤 貴美	3346	三石 雄大
3311	三浦 史郎	3347	後藤 優子
3312	中川 満	3348	露木 敦士
3313	遠藤 陽	3349	日向 宗利
3314	能島 舞	3350	江中 牧子
3315	松岡 亮太		

また、病理専門医試験実施委員会の委員構成は以下のとおりです。

第35回(平成29年度)(11名)

廣瀬隆則(委員長)、井上 健、児玉良典、桜井孝規、全 陽、鳶 幸治、中井登紀子、伴 慎一、村田晋一、柳井広之、山本浩平

3. 第25回口腔病理専門医試験について

本年度の口腔病理専門医試験は、第35回病理専門医試験と同日、同会場で行われました。

13名が受験して、11名が合格しました(合格率84.6%)。

合格者氏名ならびに口腔病理専門医登録番号は、次のとおりです(登録年月日:平成29年8月9日)。

平成29年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	姓名	195	及川麻理子
190	早田 麻衣	196	轟 圭太
191	行森 茜	197	落合 隆永
192	大林真理子	198	辺見 卓男
193	池田千浦子	199	金子 有子
194	津田 香那	200	村上 聡

また、口腔病理専門医試験実施委員会の委員構成は以下のとおりです。

第25回(平成29年度)(3名)

柳下寿郎(委員長)、田沼順一、松本直行

4. Pathology International 編集長(editor)の募集について

英文誌“Pathology International”編集長の任期が年度末に満了となることにともない、平成30年度以降の編集長を下記の要領により募集いたします。応募、または推薦の書面を病理学会事務局までお送り下さい。

〈応募要領〉

- 1) 応募は自薦、他薦を問わないこと。
- 2) 応募者は、学術評議員である日本病理学会会員であること。
- 3) 応募者が自薦の場合は、氏名、所属機関、応募の要旨を、また他薦の場合は、推薦する候補者名を記載した書面(書式は自由)を提出すること。
- 4) 任期は、平成30年4月1日より4年とすること。再任可であるが2期目以降は任期2年とすること。
- 5) 締め切りは、平成29年9月30日(消印有効)とすること。

5. 平成30年度病理専門研修プログラム(案)について

平成30年度病理専門研修プログラム(案)を病理学会ホームページに公開いたしました。病理専門研修を希望する方は、各プログラム連絡担当者に御連絡ください。採用についてはプログラムごとに行います。

参照 HP: <http://pathology.or.jp/senmoni/post.html>

6. ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程(案)意見募集について

近年、診療において病理組織・細胞検体を用いた体細胞遺伝子検査は急増しており特に悪性腫瘍の治療のために、今後は次世代シーケンサーをはじめとする新規技術を用いたゲノム診断の臨床導入が見込まれる。本病理組織取扱い規程は2016年3月に病理学会より策定された「ゲノム研究用病理組織取扱い規程」をもとに、臨床病理検体の実証データを交えながらWGの畑中豊先生を中心に、落合淳志先生、金井弥栄先生、桑田健先生、小田が策定したものである。本案にご意見のある先生は、日本病理学会事務局あてにメール(jsp-admin@umin.ac.jp)にて2017年8月31日までにご連絡いただけましたら幸いです。

【参照】<http://pathology.or.jp/news/pdf/genome-170813.pdf>

7. 「レジナビフェア2017 in 東京」活動報告

病理医・研究医の育成とリクルート委員会の主要な活動の1つとして、今年も総勢11名【茅野(埼玉医大)、大橋(横浜市大)、長嶋(東京女子医大)、深澤・久米(国際医療センター)、安井(東京大)、大原・中黒・豊國(名古屋大)、菊川・宮本(病理学会事務局)】で、7月16日(日)レジナビフェア2017 in 東京(東京ビッグサイト)に参加した。例年のように人目をひくブースを準備したのに加え、病理医の医学生への認知度がかなり上がったと考えられ10時半頃から学生が途切れることがなかった。最終的には昨年より多い70名の医学部学生と研修医が、病理医に関する話を聞きにブースを訪問してくれた。5年生が35名といつもながら多かったが、研修医の訪問が14名もあった。今年度は32:38と女性が多かった。また、今年は国公立大からの訪問の方が多かった。個別の相談も多く、30分以上面談をしていた学生も多数いた。病理を専攻した場合の勤務時間や最終進路に関する柔軟性をいつも強調して話をしている。今年も学会コーナーが設けられ、15分の講演を行った。多くの学生に日本の将来の医学研究を病理の立場から背負ってほしいものである。今年は、女性病理医の深澤先生、久米先生、安井先生に参加していただいた。女性の視点から細やかな対応をしていただいた。当日お会いしたみなさん、数年後に病理学会総会でお会いしましょう。今年も暑い1日でした。業務後に反省会をおこなって、若手リクルートの決意を新たにしました。

(病理医・研究医の育成とリクルート委員会委員長 豊國伸哉) 写真等はHPからご覧下さい。

<http://pathology.or.jp/gakuken/seminar.html>

8. バーチャルスライドを用いた生涯教育(2017年3月施行)概要報告

2017年3月に、日本病理学会では、病理情報ネットワークセンターを活用し、バーチャルスライドを用いた病理診断の生涯教育を実施いたしました(日本病理学会HP2017.03.06および新着情報2017.04.04掲載)。

その概要ならびにフォトサーベイ(外部精度管理)の結果を、病理情報ネットワークセンターの「生涯教育委員会」内に掲載しております。下記URLにアクセスし、UMINIDとパスワードでログインして、ご覧下さい。

https://center7.umin.ac.jp/cgi-bin/sp/index.cgi?big_id=B000002&small_id=S000003

なお、今回の生涯教育(2017年3月施行)は、今後も当該スレッド内に維持しますので、重要疾患症例ファイルとして、引き続きご活用ください。

9. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

神原 武 功労会員(平成28年11月7日ご逝去)

中山睿一 功労会員(平成29年7月20日ご逝去)

京極方久 名誉会員(平成29年7月25日ご逝去)

お知らせ

1. 第152回日本医学会シンポジウム開催

テーマ: がんゲノム医療の到来

日程: 平成29年11月23日(木祝)

13:00~17:05

場所: 日本医師会館 大講堂

参照 HP: <http://jams.med.or.jp/symposium/>

2. 日本がん治療認定医機構「2017年度教育セミナー聴講」申込受付

1) 開催日程:

2017年11月11日(土) 9:00~18:10(予定)

2017年11月12日(日) 9:00~11:55(予定)

2) 開催場所: 幕張メッセ 国際展示場9ホール

3) 定員: 約50名

4) 聴講対象者: メディカルスタッフ、医薬情報担当者(MR)、研究・開発担当者、医歯薬・医療系の大学生・大学院生・専門学校生、行政の担当者、など

参照 HP: <http://www.jbct.jp/admission/>